

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	03-01-02-11
事務事業名	学校図書館運営事業		根拠法令・要綱等
事業開始年度	平成13年度～		
総合計画	大項目 基本目標	地域文化と人が輝くまちづくり	問合せ先
	中項目 基本施策	未来を支える人材を育むまちづくり	担当課(室)
	小項目 施策	小・中学校	職・氏名
			電話
			64-1840

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内各小・中学校の児童・生徒
目的(何のために)	各学校の図書室の管理・運営と児童生徒の読書活動を推進する。
行政活動(どのような方法で)	市内各小・中学校への学校図書館司書の配置による、各学校の図書室の管理・運営
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	児童生徒の読書活動の推進をはかり、読書に親しむ児童生徒を育成することを通して、豊かな心の育成をはかる。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	小中学校図書館司書雇用時数	時間	8,400	13,216	13,216
	学校図書館司書雇用人数	人	7	7	7
	学校図書館司書配置校	校	19	19	19
事業費	直接事業費	千円	11,462	14,431	18,354
	人件費	千円	1,380	540	216
	事業費計	千円	12,842	14,971	18,570
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	市一般財源	千円	12,842	14,971	18,570
	必要人員	人	0.15	0.05	0.02
結果指標	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	小中学校図書館司書雇用時数	説明	小中学校に配置した学校図書館司書の総雇用時数		
	結果指標量	時間	8,400	13,216	13,216
	対前年比	%	-	157.3%	100.0%
	活動コスト	円	12,842,000	14,971,000	18,570,000
	単位当たりコスト	円	1,529	1,133	1,405
結果指標	結果指標名	説明	小中学校の学校図書館司書の人数		
	結果指標量	人	7	7	7
	対前年比	%	-	100.0%	100.0%
	活動コスト	円	12,842,000	14,971,000	18,570,000
	単位当たりコスト	円	1,834,571	2,138,714	2,652,857

事業の成果			
成果指標名	図書館司書の配置率	式又は説明	図書館司書雇用時数 / 配置校数
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	442	696	696
対前年比		157.47%	100.00%
到達目標値	944	到達目標年度	平成21年度

事業の目的、対象、内容を考えて目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	A
目的	開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	学校教育における読書活動の重要性が叫ばれている昨今、児童生徒の読書環境を整え、読書の楽しさを教える学校図書館司書の配置は非常に重要であり、本市が関与すべき事業であると考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	平成18年度に常勤雇用、平成19年度に市の同一職種との賃金の統一を図ったため、コストが増大している。しかし、優秀な人材が他市・他職種等に流出していく現状から考えるとやむを得ないものと考えられる。
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の意図する成果		
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	課題認識	平成18年度に常勤雇用、平成19年度に市の同一職種との賃金の統一を図ったため、コストが増大している。しかし、優秀な人材が他市・他職種等に流出していく現状から考えるとやむを得ないものと考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A-E>	B
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい		
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
手	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	課題認識	平成18年度に常勤雇用、平成19年度に市の同一職種との賃金の統一を図ったため、コストが増大している。しかし、優秀な人材が他市・他職種等に流出していく現状から考えるとやむを得ないものと考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている		
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
職	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている	有効性評価<A-E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	課題認識	各学校への学校訪問時での聞き取りによると、読書に親しむ児童生徒が増え、非常に有効な事業であるとの評価を得ている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	課題認識	各学校への学校訪問時での聞き取りによると、読書に親しむ児童生徒が増え、非常に有効な事業であるとの評価を得ている。
	<input type="checkbox"/> 事業のブラン作りから市民参加を得る手段をとっている		
	<input type="checkbox"/> 事業にNPO、ボランティア団体等が参画している		
	<input type="checkbox"/> 事業のブラン作りから市民参加を得る手段をとっている		
市民参画度		課題認識	各学校への学校訪問時での聞き取りによると、読書に親しむ児童生徒が増え、非常に有効な事業であるとの評価を得ている。

平成20年度の状況		
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	説 明
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量	9
	成果指標量	944

総合評価		
読書活動の重要性に対する認知が高まり、学校からの要望が多く、また、評価も高い事業である。学校の読書環境が一変し、図書室へ足を運び読書に親しむ児童生徒が増えたとの評価がある。人材活用にかかわる事業であるので、コストの見直しが難しいが、今後、重点化を図っていくべき事業である。	評価区分<A-E>	B

平成21年度以降の方向性		
<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	説 明
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する	
<input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他事業と統合を検討する	
	<input type="checkbox"/> 平成20年度で真正・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	配置人員の増員をはかる。	平成21年度	図書館司書が児童生徒と接する時間が増え、よりきめ細かな指導ができる。